

2. 本年度西経漁場の特徴

昨年度の捕獲実績と比較すると

	ナガスクジラ	イワシクジラ	マッコウクジラ
19次(昭45)	302	2,022	1,909
20次(昭46)	287	678	1,168

以上の如くイワシクジラとマッコウは大巾に減少、特にイワシクジラは3分の1に激減した。此の減少の原因を完全には把握出来ないが今次的特徴として

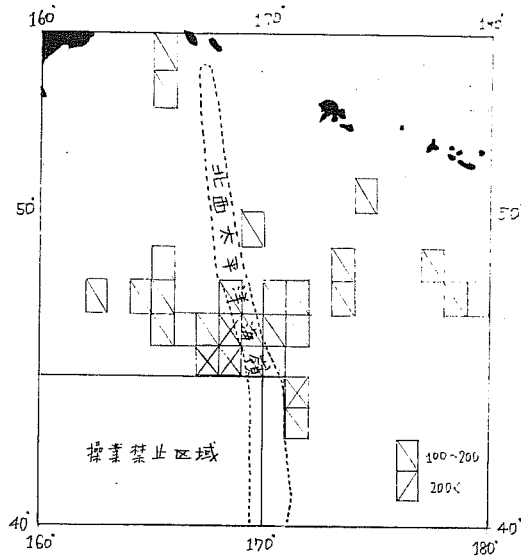
- 1) 西経漁場の冷水が強く後まで残って水温の上昇が遅れた。特に北米大陸沖のアラスカ海流が弱く、むしろ西経中央部の150°W附近が昇温して例年と逆の現象が見られた。
- 2) 今年の西経漁場はガスが多く操業日数の約30%に及び、充分な調査操業が出来なかった。
- 3) 18次、19次と2年連続西経漁場のイワシクジラを集中的にたたいたので資源的にも大きな影響を受け、又回遊の経路も変わったのではないか。

以上の様な理由から今年の西経漁場はイワシクジラの発見が特に少かったものと考えられるが、今後共相当程度の困難さは続くことが予想される。

3. 北洋捕鯨漁場と海底地形

町田三郎(鯨類研究所)

要旨 北西太平洋をほぼ南北に縦走する北西太平洋海嶺(天皇山海嶺)周辺水域に鯨類特にイワシクジラ的好漁場が形成されており、この海嶺が漁場の形成要因の一つになっているのではないかとと思われる。現在解析に必要な資料を収集し、解析を進めている。参考までに、1952年から1971年までの東経域におけるイワシクジラの捕獲分布(100頭以上)と大体の北西太平洋海嶺の分布位置を図示した。



東経域におけるイワシの捕獲分布と北西太平洋海嶺の大体の分布位置。捕獲は緯度 1° ×経度 1° の区画毎に集計し、100頭以上を示す。